

2025年度スタート 新年度事業計画を決定

3月22日の理事会において、2025年度の各施設の事業計画と予算が確定しました。

各施設は、それぞれの分野において培った専門知識を活かし、さらなる向上を目指して、新年度も努力を続けてまいります。

理事会は今年も、各施設の円滑な運営が行われていることを見届けるとともに、社会福祉制度・予算全般にわたっての検証を、法人だよりを通して発信してまいります。

併せて、深刻化する福祉の担い手不足に対応する外国人労働者の雇用や、職員のダブルワーク問題など、時代に対応した課題についても検討を深めていきます。

社会福祉法人 清水あすなろ福祉会 理事長 杉井 則夫

風の子保育園

『子どもにとって』に立ち戻り、 一人ひとりを丁寧に見て、理解することを大切に

園児全体数108人からのスタートです。今年度は、0歳児が4名と少ないことが特徴です。しかし昨年度同様、0歳児の職員体制を整えておき、10月までを見越して途中入園の受け入れをしていきたいと思います。今年度も0・1歳児については、定員を増やした受け入れができるよう、子どもの実態把握をした上で、保育環境、職員体制を整え、乳児の柔軟な保育を考えていきたいと思います。

幼児保育では、昨年度おこなってきた異年齢活動の良さを活かして、3・4・5歳児の異年齢グループを作り、異年齢保育を基盤とした幼児保育を創っていきたいと思います。

『子どもにとって』に立ち戻り、子ども一人ひとりを丁寧に見て捉え、理解することを大切に保育を行っていきたいと思います。

保護者と共にでは、園内行事の企画を検討して行きたいと思います。

また、コロナ禍以降中断していた高部まつりへの参加など、地域との繋がりを大切にしていきたいと思います。



ともの家の仲間 石橋稔さん ・・・ 追悼特集

力尽きて自ら人生の幕を閉じる

自由を求めて30年間アパート暮らし、

還暦を迎えて24時間介護が必要に



2024年9月30日、夕方、ともの仲間の石橋稔さんが63年の人生に幕を閉じました。

翌日10月1日の朝、お兄さんからの連絡で、自死と知り、職員全員が呆然とし、言葉を失ってしまいました。

石橋さんプロフィール

生後3ヶ月の時、兄弟の麻疹が感染して脳に障害を負う。アパートでの一人暮らしも30年を超えた。若い頃は自力歩行も可能だったが、20年前から電動車いすの生活。脳性麻痺の二次障害で、2度の頸椎手術を乗り越えている。身の回りのことはほぼ全介助。文字は特別なマウスを使ってパソコン入力。

とも一番の古株・石橋さん

不便をも笑い飛ばして、電動車椅子でパンの行商

開所当時のともの家は、職員も併せて10名程の無認可作業所でした。自由な空気があり、石橋さんもそんな雰囲気が気に入ったのでしょう。

「パンの行商に行ってきます」と電動車椅子に上り旗をつけて、実家近辺の知り合いの家々を回り、パンの外販。車いすには乗っていましたが、少しの距離なら立って移動ができていましたので、さほど不便を感じていなかったと思いますし、不便をも笑いで飛ばしてしまうユニークな人でした。

長渕剛の大ファンで、桜島コンサートに出かける行動力と、一緒に行こうと誘ってくれる友人たちの存在。十八番の「大空と大地の中で」は、自身の人生を語るように歌っていました。

自由を求めて！！！

『障害をもつということは、人よりもがんばって苦労しないと社会の中で生きていけないとと思っている。そうしないと施設に入ることになる。俺は自由に



生きたい。だからこれからも俺はむりしてでも外へ出ていく』

生前石橋さんが語っていた言葉です。自由を求めて、約30年間のアパート暮らし。

難しい！ 24時間同じ空間にいる介助者との意思疎通

アパートでひとり暮らしを始めたのが、今から20年ほど前だったと記憶しています。障害者総合支援法に基づく重度訪問介護という仕組みを利用し、ほぼ24時間介助者が同じ空間にいる暮らしでした。

清水でスタートしたひとり暮らしでしたが、介助者との意思疎通が難しく、いざこざが絶えず、静岡に引っ越したのが10年ほど前、介助者との暮らしは、多少改善されましたが、強い言語障害と相手を慮りすぎる性格が誤解を生み、苦悩していました。



60歳を過ぎてあちこち故障…二次障害に襲われる

60歳を過ぎたころからは、身体のあちこちに故障がでて、今日は歯科、明日は耳鼻科、次は整形と、病院めぐり。どこに行っても、思うような改善は見られず、高齢から来るものだと言われることに腹が立つと言っていました。重度の脳性麻痺を持った身体に加齢が加わり、二次障害、三次障害となって、石橋さんを襲っていました。

静岡に引っ越してからは、ともの家が遠方のアパートまでの送迎に対応できず、毎週2日の通所とし、事務所で事務に関する雑務を担っていました。正直言えば、毎日ともの家に来たいと、呟かれたこともありましたが、人手不足の現場の実情では叶えることができませんでした。

半年前…笑顔が消える…

石橋さんの笑顔が消えてきたのは半年前ほどでしょうか。朝から憂鬱な表情で、「おはよう」の挨拶も返せないほど落ち込んでいる日もありました。簡単な会話は、机や手のひらに文字を書いて伝えていましたが、話したいことが沢山ある時は、お互いが時間と余裕を持って、会話する場を設けていました。聞く側の集中力が試されました。「もう一回」と何度も聞き直して書いてもらうことに、申し訳ない気持ちにもなりましたが、伝える努力と聞く努力、明らかに信頼の上に成り立っている会話の時間でした。

8月・「全てが嫌に……」～

8月初めには、「全てが嫌になった」という言葉も聞いていましたが、暮らしの場に介入する術もなく、時が過ぎていきました。

自由であるはずの一人暮らしですが、いつの間にか不自由となり、尊厳を失った結果の決意だったと、今でも胸を締め付けられる思いです。

ともの家施設長
滝戸恵美





令和7年・「はじまる」をキーワードに

令和7年度がはじまる。あすなろの家には、終業式も始業式もなく新年度と言っても、3月が終わって4月が始まる、それだけのこと！だからこうやってその年のワードを作ってきた。毎年度毎年度こんな空気の1年にしようよってワードを決めて取り組んできた。一緒にその空気感を作り出してくれる職員さんへは感謝！

令和7年度は「はじまる」、未来に向け新しい事業がはじまる。あすなろの家が27年間繋いできたことから見えてきたもの。これまでもこれからもぶらしてはいけないこだわり。

そしてこれから未来に向けた夢。これらをチョコレートに乗せて社会に伝えてみたい。

こここのところの社会情勢、明るい話題は少ない…。未来に向けても厳しい話題ばかりが耳に入ってくる。この先どうなってしまうのだろう…。

確かにそうなんだけど、もちろん先のことについてもちゃんとを考えながら、今を精一杯前向きに進み続ける！そのほうが楽しいかな。

ここからはじまる。あすなろの家は笑顔を作り出す場所。私たちの130の笑顔で、今年度はどれだけの笑顔を作り出せるのか？

「さあ　はじまる！」　わくわくする！！



障害のある仲間たちが主人公であること



営利企業の参入が解禁されて以来、営利の追求が出来る事業は、障害児者の取り合いをするような事態になっています。

そこで取り残されるのは、重度の障害者と言う構図がはっきりしてきました。

そんな社会情勢の中、あすなろ福祉社会や「ともの家」が理想



生活介護の仲間の
作業風景（パン
ドケーキ作り）

とする福祉の姿や理念をどう実践していくのか、転換期に来ていると感じています。

「障害のある仲間たちが主人公であること」「権利の主体者として地域で暮らすこと」に協力することに惜しみない力を注いでいくことに迷いはありませんが・・・R7年度も苦難の年になりそうです。

